

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4347
23年5月12日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

人間は本来みな自由で 平等の原則に反する 国王制度は差別である

おはようございます。

五月六日、イギリスでチャールズ三世の戴冠式があった。百七十億円をかけるのか。驚き。英国での世論調査は、チャールズ三世を国王と認めることに六割が反対だと数字があるが、マスコミは一千年の伝統あるイギリス王室と絶賛する。これは史実か。十七世紀。英国はそれまで

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員、パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

絶対君主制であったが民主革命後の議会を認めない国王と王党派が議会派と対立し内乱となり、王党派が破れ、一六四九年に国王・チャールズ一世は「暴君で国民の公敵」として処刑される。



このとき英国議会は君主制を廃して、「イギリスと人

民はここに共和国となる。今後、この国は王や貴族なしに統治される」と宣言する。しかし共和国議会議会派は内部対立をし、十年での自由主義革命は失敗に終わる。

おりから国外に亡命中だったチャールズ二世は帰国し、王政復古となる。しかし国王は、議会を嫌い、王権神授説をとる。一口でいうと王は神以外に縛られない、として、法と議会を無視し、晩年は議会も開かず、専

制政治をとる。

やがてチャールズ二世が亡くなり、再び議会派が台頭し、新国王も亡命し、一六八八年に名誉革命で、「権利宣言」が出され、イギリスは立憲君主制の国となる。

今回、即位したチャールズ国王も、歴史の偶然なのか、イギリス史上、議会による国王の処刑(一世)や悪政の王(二世)と同じ名前が重複したが、王室千年の輝く伝説と継続性には疑問がある。

世界史的にいえば、この王政復古の反動とピューリタン革命(清教革命)の影響で、弾圧からアメリカ新大陸に亡命者が増え、王制度のない自由主義の国アメリカができたのだから歴史は皮肉である。

このアメリカの独立戦争をイギリス人のトマス・ペインが応援し、「コモン・センス」や「人間の権利」などの王政批判の本を書く。

その中で彼は、人はみな平等。人間を王と臣民に分けることは差別である、との立場で「人類は、本来、天地創造の秩序においてはみな平等

であった」と、アメリカの独立派を励ます。

一七七六年七月四日、アメリカは独立宣言を出す。歴史家は「(独立は)ペインが『コモン・センス』で始めた仕事をジェフアソン(アメリカ第三大統領で独立宣言の起草者)が『独立宣言』で完成した、ともいう画期的な檄文であった。



だがイギリス国王はコモン・センスを大逆罪で死刑の宣告をする。立憲君主の国王でも議会議派を弾圧する。これが真実の歴史だ。

こうしたイギリス王室の歴史と比べ、日本の天皇制はどうか。歴史書として最古で七二二年にできた古事記や日本書紀では、神話を含めて百二十六代の天皇がいたとき

れるが、有史では西暦五九二年の第三十三代の推古天皇のころからの記録が残る。

その中で天皇制の最大の危機は、鎌倉末期から南北朝室町時代だろう。後醍醐天皇



これも時代のなせる業だが、室町時代は日本の歴史が凝縮しているという歴史家もいる。天皇が流刑だから、事實上、空位であり、存廃の危機にあつたし、天皇の権威をのりこえる新時代の転換をなした時代だったのだ。

またこの時代に始まった自由な空気は、歌舞伎者(かぶきもの)という特異な人種を生む。室町幕府の祖の足利尊氏の右腕とされる家来の高師直(こうののもろなお)は「バサラ大名」の異名をとるが、彼こそ室町幕府(一三三七年、十五代將軍)の礎を作った人だ。バサラ者(歌舞伎者)とは、異様ないでたちで大道を闊歩する者というが、現代日本の最大の歓楽街の町名が歌舞伎町であることは面白い。

この改革派の高師直は中

世の戦を近世の合戦に変え、將軍による領土安どの方式を変え、荘園主体の公家政治を解体した有能な政治家(革命家)だった？



ちなみにいまNHKのBS時代劇では、「歌舞伎者・慶次」というドラマが再放送されておられ、朝日新聞には小説「人よ花よ」で室町時代と高師直が書かれている。(ブームかな?)

実際の歴史では、鎌倉時代から七百年間は、武家の將軍が国の政治をとったのだ。それが明治維新の王政復古で、天皇を神とする天皇制国家ができ、先の太平洋戦争での敗北から、昭和天皇が、人間宣言を発し、以降、新憲法によって、象徴天皇として現在の立憲君主制があるのである。

国民を王と臣民に分ける制度そのものが差別である、というコモン・センスの言葉を借りるまでもなく、人は本来、自由かつ平等であるという当たり前の非差別の社会が来ることを願う。

この改革派の高師直は中

